



〔 16 番 岡本里美議員 事務局長席に移動〕

岡本里美事務局長



ご連絡いたします。まもなく本会議を再開いたします。ジュニア議員ならびに関係者の方はご着席ください。

〔全員着席〕

再開後の事務局長を務めます、16番 宇都宮商業高等学校2年 岡本里美です。

再開後の議事運営は副議長が行います。
それでは副議長、ご着席願います。

〔 19 番 鈴木麻里菜議員 議長席に移動〕

鈴木麻里菜副議長

副議長の鈴木麻里菜です。よろしくお願いたします。

ただいまから会議を再開いたします。引き続き一般質問を行います。

産経children部会 40番 宇都宮清陵高等学校2年 菊池稔さん，
41番 宇都宮工業高等学校2年 古口翔大さん。

40番 菊池稔議員

議長， 40番

41番 古口翔大議員

議長， 41番

〔 40番 菊池稔議員， 41番 古口翔大 登壇〕



40番 菊池稔議員



40番，宇都宮清陵高等学校の菊池稔です。私は、「宮のものづくり達人制度PRと有効活用」について提案します。

宇都宮には、宮のものづくり達人制度というものがあります。さまざまなものづくりの達人が、企業支援、人材育成、後継者確保及びものづくり学習の促進を図り、地域産業の振興に繋げていく制度です。しかし、私は、この議会に参加するまでこの制度を知りませんでした。この制度を有効的に使えば、地域産業の振興にもつながりますし、後継者難の伝統工芸などを若い世代の人々にPRし、興味を持ってもらうこともできます。「知らない」のではもったいないと私は思いました。

ました。

そこで私は、この制度をもっとPRするために、宮祭りなどの大きなイベントでたくさんの方が集まったときにオリオンスクエアや釜川のふれあい広場にもものづくりの達人を呼び、実演してもらうことを市に提案します。そしてもうひとつは、オリオンスクエアやふれあい広場での実演だけでなく、授業の一環として体験教室を開き、達人を呼び伝統工芸などに触れる機会をつくるのはどうでしょうか。中学校や小学校には、「総合的な学習の時間」というものがあり、その時間は、個人が決めたテーマにそって追究や研究をしていく、というものです。たとえば、料理に関して、研究をしていくなら、宮のものづくりの達人には、洋菓子、中国料理、みそ製造などの達人が、認定されているので、その人たちを講師として呼び、研究を深めるということもできます。そうすれば、PRどころか有効活用も図っていくことができます。

私たちの提案を、是非、検討をしていただけないでしょうか。

どうぞ、よろしく願いいたします。

41番 古口翔大議員

41番，宇都宮工業高等学校の古口翔大です。「釜川を活用した中心市街地の活性化」について3つ提案いたします。

まず1つ目に、釜川のごみ拾いをする必要があると考えました。現在は、河川愛護会の人達をはじめ市でも清掃をしていますが、いまだにごみを捨てる人たちがいるようです。そこで、私たちを

含め地域の人々や小中学校で協力してごみ拾いを行い、周辺を綺麗にしていくとよいのではないのでしょうか。

2つ目に、釜川のところどころにあるロマンチックドームや時計台を題材にしたクイズやスタンプラリーを河川愛護会などが中心となり実施したらどうでしょうか。スタンプラリーなら、オリオン通りで遊べないような小さい子も楽しむことができますと思います。そうすれば、家族で来てくれるのでスタンプラリーが終わった後に少し体を休めるために飲食店に寄ることもできますので、中心市街地の活性化につながるのではないのでしょうか。

最後に、釜川の河川敷に四季の花を植えて華やかにしたらいいと思います。私たちが実際に釜川を見てきて受けた印象は、あまり明るいものではありませんでした。そこで、春にはチューリップ、夏には向日葵、秋にはコスモス、冬にはポインセチアを植えたらどうでしょうか。釜川の姿が四季ごとに変化して楽しめると思います。そうすることで、釜川の印象が明るくなりイメージアップになると思います。

これらの提案を実現するため、私たち産経 children 部会としても「ジュニア愛護会」を立ち上げ、私たちの手で、釜川を綺麗にするほか、スタンプラリーや草むしりを行い、花を植えようと考えています。さらに、宇都宮市民の参加を募集したいと思います。

このような活動に対して、市からどのような支援や対応をしてもらえますか。これら3つの提案が実現することによって、宇都宮市のイメージが明るくなり釜川や中心市街地の活性化になると思います。

以上で終わりにします。ぜひ、検討をよろしくお願いします。



佐藤栄一宇都宮市長

議長，市長

鈴木麻里菜副議長

市長

〔佐藤栄一宇都宮市長 登壇〕

佐藤栄一宇都宮市長

「産経 children 部会」のご質問に、順次お答えいたします。

まず、菊池議員の「宮のものづくり達人制度のPRと有効活用について」であります。地域産業の振興や、伝統を守ることの大切さを真剣に考えている議員のご提案に大変感心いたしました。

PRにつきましては、広報「うつのみや」や市のホームページへの掲載をはじめ、地区市民センターや生涯学習センター、市内小中学校へのパンフレット配布や毎年春に行われる「フェスタmy 宇都宮」への参加などにより行っております。

また、ものづくり達人の活用につきましては、地域の子育てサークルや学校のPTAの方々の体験研修の一環として、達人の派遣を行っております。

現在、このような取り組みを進めておりますが、制度本来の目的である、人材育成や後継者確保

を図るための若い方々へのPRや利用者層に偏りがあることが課題となっており、議員のご提案は、この課題を解決するため有意義なものであると考えております。

ご提案の、大きなイベント時での実演につきましては、より多くの人に実際に匠の技を目にし、その技術を肌で感じてもらうことで、「ものづくり」に興味を持つ機会になると考えております。

また、「総合的な学習の時間」での体験教室の実施は、専門的な技術や「ものづくり」の奥深さを体験することで、「ものづくり」への意欲や探究心が生まれ、創作的な職業や伝統的な「ものづくり」への就業意欲を喚起するものと考えます。

何よりも、企業や伝統工芸品産業にとって、技術の継承や後継者の育成は大変重要な課題であり、若い世代の方々が、「ものづくり」の素晴らしさを学ぶ機会を持つことは、職業選択の幅が広がると同時に、地域産業の振興のためにも必要なことであると考えております。

本市といたしましても、ご提案いただいたアイデアの実現も含め、より多くの市民の皆さまに本制度を知っていただけるように、あらゆる機会を活用し、更なるPR活動や有効活用を行ってまいります。

次に、古口議員の「釜川を利用した中心市街地の活性化について」のうち、「地域や小中学校によるごみ拾いについて」であります。現在、市は、河川愛護会やボランティア団体などと連携しながら、積極的な清掃活動などを行い、ごみは、年々少なくなっておりますが、いまだに、ごみを捨てる人たちがいるようです。

議員ご提案のとおり、周辺の自治会の人たちや小中学生の皆さまにも、ごみ拾いをしていただくことにより、その姿を見て、ごみを捨てる人たちが減り、釜川だけでなく、中心市街地全体のごみの減少にも、つながると思いますので、周辺の学校や自治会に呼びかけるなど、ご協力をお願いしてまいります。

次に、「釜川を題材にしたクイズ、スタンプラリーの実施について」であります。中心市街地では、釜川プロムナード整備協議会が中心となり、中心市街地の活性化や回遊性の向上を図るため、釜川ふれあい祭りを春、夏、秋、冬の年4回開催しております。

議員ご提案のクイズやスタンプラリーについても、大変すばらしいアイデアだと思いますので、早速、実施してまいります。

次に、「河川敷への花の植え付けについて」であります。現在、釜川の一部では、地域の皆さまによる、花の植栽やフラワーポットの設置が行われておりますが、議員ご提案のとおり、四季おりおりの花々で、訪れた人たちの心をなごませることができ、釜川のイメージアップにつながると思いますので、さらに、地域の方々と連携を強化し、推進してまいります。

最後に、「ジュニア河川愛護会」など、新たな、ボランティア団体を設立し、ごみ拾いや中心市街地の活性化に向けたイベントに積極的に取り組んでいただけるとの大変、すばらしいご提案をいただき、ありがとうございます。これを本当の市民協働の社会というのです。ありがとうございます。

釜川を利用して、中心市街地を活性化する取組みに対し、自ら、積極的に参加するというご提案に、古口議員の熱い思いを感じました。

市は、皆さまが、ボランティア活動を行う時には、花の種やフラワーポットなどを提供するとともに、市も、皆さまと一緒に、ただただ、皆さま方に任せるのではなくて、我々も一緒にな

って汗をかいて、取り組んでまいります。

今後も、「潤い」、「憩い」、「やすらぎ」の場として、新しいイベントを実施するなど、釜川が、市民に親しまれる川になるよう、引き続き、努力してまいりますので、皆さまも、ご協力をお願いいたします。

鈴木麻里菜副議長

以上で、産経children部会の質問を終わります。

